

▼ニスを塗った石人形をピンセットで丁寧に並べ作品を作る横田さん



石人形作りを手伝い始めた横田さんでしたが、観光客から石人形のこと以外に岩国について質問されることが多くありました。答えられないことが嫌で図書館や資料館で岩国の郷土史について必死に勉強を始め、

いた自分に気付き、父親の還暦をきっかけに、思い切って岩国に帰ることを決めます。

改めて岩国のことを学ぶうちにある一つの思いが芽生えます。「地元の人にこそ岩国の魅力をもっと知ってもらい、もっと好きになってもらうことが地域振興の一番の近道ではないか」そして20代最後の年には岩国の歴史や文化を楽しみながら学べる検定本の自費出版まで果たします。資料集めや写真撮影、編集作業まで全て一人で作り上げた経験は、岩国愛を深め、自分の力で岩国と石人形文化を広めることができるんだという現在の横田さんの自信になっています。

「小さな石ですが、一つとして同じ形はなく見る人によって見える形も違う、そこが僕にとつての魅力ですね。築かれてきた岩国の歴史や文化の中にその石人形もある、自分の代で絶やさずなんとか未来に繋いでいきたい」そんな使命感を感じながら、横田さんは今日も黙々と作品を作ります。



▲採集作業の最盛期は5～6月で、1日に2千個も採集するという



▲小さな石人形にはそれぞれ個性があり、見える形はあなた次第



岩国にしかない文化を繋ぐ

Vol.112

横田 太陽さん
(横山在住)

岩国石人形ミニ資料館代表。伝統工芸品の石人形を作りながら、岩国の郷土史について学ぶ。地元の人に岩国の魅力を知ってもらうため2009年に『岩国・錦帯橋検定』を出版する。

